

ミャンマー北シャン州ナムサンへの巡回医療 2011年4月12日～19日

コード番号：10-A-249

ビルメロの会 理事長 広瀬 英一郎

当会の巡回医療に対するご支援に深く御礼申し上げます。257名の村人を診察し、約300名のパラウン族の子供達に、当会の教師たちが授業をすることができました。特筆すべき事項としては、昨年までの医療支援活動に加えて、子どもたちへの教育をビルメロの会の教師と現地の教師が協力して行ったことがあげられます。当初立てた目標を効果的に達成するために、当会の寺子屋で教師を6年以上努めているミヤミヤモーさんとウィンエイピュさんをマネージャー、アシスタントマネージャーに指名しました。特にミヤミヤモーさんには、プロジェクトマネージャーとして、計画の立案、実行を管理することにより、リーダーとして成長することを期待しました。ミヤミヤモーとウィンエイピュ両名にとって貴重な体験となり、大きな自信を得たようです。貴財団のご支援のおかげで、両名を帯同することができました。重ねて御礼申し上げます。

(活動の目的)

参加メンバーと話し合い、目的を明確化、共有に努めました。目的の設定に当たっては、短期間の支援であることを考慮し、教育に力を入れ現地の医療、教育関係者との信頼関係をいかに確立するかについて話し合いました。また、設定した目標の達成度合いをどのように測るかについても検討しました。そして、以下の目的を設定しました。

目的

1. パラウン族の人々と我々チームの相互理解を促進する。
2. パラウン族の人々に衛生教育をする。現地の医療関係者に、Dr.サヤリーが治療法や薬の使い方を指導する。
3. リーダーシップを理解し体験する。プロジェクトをいかに効果的、効率的に遂行するか実体験する。
4. 村人を治療し石鹸、毛布、衣類や文具を寄付する。
5. 現地の助産師、ヘルスアシスタントと信頼関係を築き、依頼があればヤンゴンから支援できる関係を確立する。現地の医療関係者を教育し、食生活の改善を図る。

(活動の実施経過)

出発前に医療活動と教育活動について必要な物資を検討し、調達しました。薬については、現地の助産師、ヘルスアシスタントが5名参加する予定となった為、予算より購入金額が増えました。ナムサンは辺境地の為、なかなか本や教材が手に入らないことを考え、百科事典や地図、様々な教材等も購入しました。

4月12日にヤンゴンを発ち、13日にナムサン到着。14日から17日の4日間、医療・教

育活動を行いました。まず、目的の村に着いたら全員で診察の準備をし、ミヤミヤモーさんとウィンエイピュさんは、血圧計で患者の血圧を記録しました。村人各自に、血圧を記録した紙を渡し、血圧の高い人には食生活などについて注意しました。現地助産師やヘルスアシスタントも5名が通訳や助手として参加し、Dr.サヤリーから指導を受けました。加えて、ヤンゴン外国語大学で日本語を勉強しているヌヌさんや彼女の従姉妹もボランティアで通訳してくれました。お年寄りや、子どもの中にはビルマ語が全く分からない人がいるので、彼女たちの参加は助かりました。

診察に訪れた村人の血圧を測り終え、村の学校でミヤミヤモーさんとウィンエイピュさんが子どもたちに衛生教育や、地理を教えたり、詩を唱和しました。子どもたちは、物語に興味津々でした。各村々で、現地の教師と授業法などの話し合いも出来ました。そして、百科事典や本、副教材などは現地の先生方に大変喜ばれました。詳しくは、彼女たちのレポートを同封いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

(活動の成果)

医療面では、現地の助産師やヘルスアシスタント5名が診察に参加し、ヤンゴンからの医師より指導を受けることが出来ました。医療活動終了後には、薬を、参加した医療関係者の皆さんに寄付しました。今回は、食生活改善の講演をすることが出来ました。先ず医師が高血圧について説明し、摂取を控えたほうがよい食事を具体名を挙げて指導しました。今回受診した村人のなかには、昨年の処方と血圧を書いた紙を大事に持ってきた方もいて、健康に関する知識も増えてきて、体調もよくなったと言われました。

教育面では、今回初めての試みとして当会の寺子屋教師2名による授業を、現地教師の協力の下実施しました。ミャンマー地図、世界地図でナムサンとミャンマーの位置を子どもたちに聞いたのですが、正しく答えられた生徒は一人もいませんでした。地図だけではなく、百科事典や辞書、様々な教材は現地の先生方に大変喜ばれました。鶴を折ってくれた子どもたちは、紙から立体的な鳥が出来たので大喜びでした。そして、日本の地震、津波、原子力発電所事故で苦しんでいる人達のために、お祈りをしてくれました。子どもたちが祈ってくれた鶴は、後日、宮城県の女川町に当会副理事長の荒谷医師が届けました。

(今後の課題)

今回も、マラリアに苦しみ背中をマカロンという民間療法で治療している子どもを診察しました。マカロンとは、空き缶の底などで皮膚を赤くなるまでこする伝統的な治療法で、医学的には効果があるとは考えられません。幸いなことに、我々の抗マラリア剤で熱も下がりましたが、なかなか民間療法をしないように説得するのは困難です。ミヤミヤモーさんがレポートで指摘しているように、もっと頻繁に巡回医療にいければよいのですが、それもなかなか容易ではありません。その為に、現地医療関係者との信頼関係は大事だと考えてきました。6月2日に、通訳を務めてくれたヌヌさんから‘寄付した薬が治療にやくだ

っている’ という嬉しいメールが届きました。(ヌヌさんの父親は、ナムサンでヘルスアシスタントをしています。) また、当会の教師と現地教師の共同授業も双方にとって、刺激になりました。出来れば、ナムサンの先生方をヤンゴンに呼んで、当会の寺子屋も見学していただけたら、お互いに勉強になるのではと考えております。

このような活動ができたのも、貴財団のご支援のおかげであります。心より御礼申し上げます。有り難うございました。